

2017

於：大阪府 吹田市

国際融合文化学会秋季大会

2日目 フィールドワーク

日：11月5日(日)

時：午前10時

集合場所：阪急「豊津駅」改札前

《コース》 全行程 3.3km

出発地：阪急豊津駅(10:10) 0.8km →
(10:25着) 垂水神社(10:55発) 0.8km
→ 豊津駅 0.5km → (11:15着) 吹田カトリック教会(11:25発) 0.8km → (11:40着) 泉殿神社(11:50発) 0.4km →
(12:00着)
到着地：アサヒビール吹田工場(工場見学・試飲：90分) 解散 13:30頃

垂水神社



延喜式内名神大社で、崇神天皇の皇子である豊城入彦命を主祭神としています。平安時代前期成立の『新撰姓氏録』によれば、孝徳天皇の時代、諸国干ばつした際、豊城入彦命の子孫である阿利真公が高樋を造って難波長柄豊碕宮に垂水岡基の水を献上した功によって垂水公の姓を与えられ、垂水神社を掌るようになったといわれています。

平安時代の「続日本後紀」「日本三代実録」等に祈雨に関わる記録がたびたび見られることから、祈雨神として著名であったようです。また、八十嶋祭に奉仕する五社の一つに数えられています。万葉集にある志貴皇子の歌「石ばしる 垂水の上の早蕨の萌え出づる春になりけるかも」は当地を詠んだという説が有力です。

垂水遺跡

垂水遺跡は弥生時代を中心とする集落遺跡です。丘陵上で竪穴式住居跡・高床式建物跡等の遺構と弥生土器・石鏃(石のやじり)・砥石・石槍等の遺物が発掘され、弥生時代後期の高地性集落であったことが明らかとなりました。また、近年、古墳時代前期の熔けた痕のある大型の青銅鏡の一部が出土し、その性格が注目されます。

垂水遺跡周辺の丘陵南裾は急な崖状の傾斜となっていて、これは、海食崖の名残とみられます。今から約6000年前の縄文時代前期に地球全体の気温が上昇し、海水面の上昇(縄文海進)が進んだ結果、千里丘陵の南縁部が波に洗われ形成されたと考えられます。以後崖下の低地は徐々に陸地化が進み、垂水遺跡を含め他の遺跡の集落の成り立ちに大きな影響を及ぼしたと思われる。(「吹田市観光案内」より転載)

吹田カトリック教会

キリスト教の中でも由緒ある伝統的な「正教会」の聖堂。「ハリストス」とは、「キリスト」のギリシャ語読み。昭和37年に天満橋から吹田に移りました。ビザンチン・ロシア建築の特徴ある屋根と十字架が、緑

の木々と調和しています。

泉殿神社



平安中期、牛頭天^{ごず てんくうおう}空王（素盞^{すさおのみこと}鳴尊）の神

興が休憩したとき、日照りで苦しむ里人がこの神に祈願すると泉が湧き出したと伝えられ、神社名と泉殿霊泉が伝えられました。今はすっかり枯れて霊泉跡となって例祭ごとに神楽獅子が奉納されています。

阪急電車千里線の吹田駅から歩いて数分のところにあります。神社の由緒書には、1970年に千里丘陵で開催された日本万国博覧会の会場建設の地鎮祭で、泉殿宮の宮司が祭主を務めたとあり、この地域一帯の氏神さんであったことが理解できます。境内には湧水の泉があったらしく、その昔、その湧いた水をドイツのミュンヘンに送って鑑定してもらったところ「ビール醸造に

適している」とのお墨付きをもらったらしく、それが故に、同じ水系の湧水からアサヒビール吹田工場が建設されたとのこと。残念ながら、境内の泉は枯れてしまったらしいです。ついつい見過ごしてしまいそうな神社です。（「トリップアドバイザー」の 口コミ・他より）

旧西尾家住宅



旧西尾家住宅は、仙洞御料庄屋を勤めた伝統と茶の湯の精神を感じさせる屋敷です。数寄屋風を」意識した主屋、茶道藪内家の指導になる茶室、牧野富太郎の関与が伝えられる温室、著名建築家武田五一が和洋折衷の意匠を試みた離れなど多彩な建物からなり、文化性に富む優れた建築が伝えられています。当住宅は平成21年（2009年）12月8日、重要文化財に指定されました。

（「吹田市観光案内」より転載）

「旧西尾家住宅」へは今回のコースに入っ

ていませんが、時間のある方は是非お立ち寄りください。見どころのある施設です。

アサヒビール吹田工場



アサヒビール発祥の地として、操業開始当時の写真などを展示、当時の建物の一部も貴重なモニュメントとして残されています。ワールドビアコレクション展示コーナーもあります。アサヒビール吹田工場のご案内係がビールの製造工程やミニ知識を楽しくご紹介します。工場見学後は、できたてスーパードライなどのご試飲をお楽しみください。（「吹田市観光案内」より転載）

今回初めてフィールドワークを企画してみました。参加人数は10人程度と考えています。

全行程3.3kmなので、無理なく雨でも実施できると思います。